

## 四谷の

# 千枚田たより



第 139 号

## 回想

昭和四十六年には千二百九十六枚が耕作されていた棚田も「米あまり対策、経済成長」などが起因、僅か十八年後の平成元年には三百七十三枚まで減少した。

その後も減少傾向にあり、このままでは消滅も免れないと思い、平成三年、五十歳の誕生日(舞)を契機に「地域の宝」として、また、単身赴任等で地域の皆さんに大きな負担をかけた恩返しにと、棚田保全に取り組んだ。平成六年、愛知国体山岳競技会場の「山びこの丘」で第一回千枚田写真展を開催、全国発信するとともに全国棚田サミット開催の一端を担った。サミットに出席した町長さんから保存会設立の打診を受けたが地元耕作者からは設立に良い感触は得られなかった。平成八年、第二回の写真展がきっかけとなりNKK「にほんど真ん中紀行」の全国放送から耕作者の意識が急変、平成九年一月十二日「鞍掛山麓千枚田保存会の設立に至った。保存会設立の願いは各々の自力では限界が見えている。組織を受け皿に保全継承、支援(助成・交付金を頂けなければ終りが見えていると常々の想

いが一挙に払拭された。保存会発足と同時に行政は農道整備に動き

だして頂いたが、計画図では市道や林道と同じ勾配、幅員でほとんど田んぼが無くなることから丁寧にお断りした。

平成十一年には「ふるさと水と土ふれあい事業」で行政は、耕作者の意見を盛り込んだ(例えば過去の洪水にも耐えてきた沢は現状のままでも田んぼを道に提供する。等々)整備が行われた。おかげで農道を軽トラでスイスイ、耕耘機の出し入れも昔を思えば夢のように楽チンになった。「これで田んぼを止めるなんて言ったら罰があたる」と棚田の百姓は皆んな心で思っている。

この事業は国民の税金(総事業費二億五百万円)で整備、その内容は①耕作道(景観道)整備(一億三千万円)②ふれあい広場整備三千六百万円③四阿、水車、ぼつとり等(三千九百万円)である。

本事業により、景観路及びふれあい広場の整備した後は、連谷地区における共同活動の一環として「鞍掛山麓千枚田保存会」が中心になり、施設の維持保全を行う。また、その際には鳳来町ふるさと農村活性化対策基金の運用益による支援を行

うと共に施設の多面的機能の普及、啓蒙により、土地改良施設を通じた一層の地域参加型社会形成を図ることが義務付けられている。

棚田の百姓は純朴(口は悪いが)で真面目が取り柄であり、連谷お助け隊、棚田っ娘共々施設整備(草刈り等)や都市交流の受け入れを積極的にやっている。

保存会設立までは千枚田写真展などから訪れる人々もぼつぼつと賑わいしたが、道ができ、各種イベントも積極的に開催。また、メディア報道の度ごと大勢の人々が訪れ知名度も上がり、今では年間二万人を超す癒しの場となり地域の宝、市・県の顔として揺るぎない地位を築いた。

訪れた人々の推移  
十五年 四千人 施設整備完了・農村アメニティ大臣賞・四谷の千枚田だより発行 急激に増えた。  
十八年 六千人 前年、棚田サミット開催。二十年 一万人。二十二年 一万五千人 田園自然再生活動大臣賞・COP10エクスカースション会場。一昨年には二万人を超し、年ごとに増える傾向にある。

訪れる多くの人から自動販売機はないか、とか、なぜ置かないかと聞かれるが「あんたん等はこれだけ旨い空気を吸って、何を言っとるだん、ジュースなんか、この千枚田には似合わないのん」の嫌味に「自販

機」を置かないという信念に改めて感服している。

施設整備の完成の暁には・・・から、早 十七年、毎週一回をペースにふれあい広場のトイレ掃除をしているが、「ウンコ」が便器にこびり付き、なかなか取れない。街場の人には景色を見て、癒されて「ウンコ」を残してくれる。有り難くもなく、嬉しくもない。

とはいうものの、国民ひとり一人の尊い税金が投入されている。訪れる中には無礼な連中もいなくもない。いちいち斜視でみていると胃が痛む。スマイルが薬だ。

**春が来た**  
忙しくなり、夕方の黄門様も見れなくなるのん



## 美の里づくり受賞

第十回 美の里づくりコンクール  
農林水産省主催

**趣旨** 国民共通の財産である良好な農村景観を形成するためには、持続的な農業生産活動はもとより、地域住民等も参加した個性ある美しい景観づくりへの取組が重要である。同コンクールでは、地域の自主的努力により農山漁村の美しい景観が保全・形成されている優れた活動事例を表彰するとともに、あわせてこれら優良事例の普及を図ることを目的としている。

千枚田を宝として各種活動に邁進する地域住民にささやかなお礼ができればと応募してみた。

結果的には「大臣賞」には届かず「審査員特別賞」と、銅メダルの次に値する賞になる。全国応募の幅広い中からの受賞と思えば榮譽には間違いない。

さて、ここで困ったことが起きた。賞は頂いたものの二十三日、東京の表彰式に自費で出席が条件となっている。保存会にはそんな余裕はないし、後期高齢者で年金生活者の(舜)にも地域活動で貧乏している。何だか、「乞食が馬を貰った」ような気がしなくもない。

## 銀幕登場

今日(五日)、河瀬直美監督、樹木希林主演の映画「あん」(六月封切)の撮影に協力したことでスクリー

ンに(舜)をフルネームで表示したいと打診があった。希林さんは我が家まで訪れ、女房と一緒に旦那の悪口造言に柳眉を下げ、また、地域のお花見会にも快く腕を組み、同行していただいた。大女優「希林」さんとの出会いは生涯の思い出でもあり、おそれ多いと思いつながらも、快諾した。余談ではあるが家政婦役で人気の市原悦子さんも希林さんの希望から九年ぶりに映画出演するそう、その駆け引きが見ものだと、今からわくわくしている。

## 役員会

三月七日、保存会の役員会を開催、差し迫った各種事業について討議した。

一、奥三河パワートレイル大会エイドステーションについて

保存会が母体となり協力する。

二、棚田サミット開催十周年記念シンポジウムについて

九月五日、開催する。

三、四月三日、横浜ゴム新入・幹部講習について

受け入れ決定。

四、鳳来北西部地域協議会地域活動交付金事業応募について

本日(三月七日)審査会があった。

## 連谷小学校卒業式

三月二十日(金)、二人の児童の卒業式が二人の在校生、お世話になった先生や父兄、来賓の方々に祝福されて母校を後にする。

## 第二回奥三河パワートレイル

本格的ミドルディスタンスのトレイルランニング大会

開催日 四月十二日(日)

豊かな自然に恵まれた奥三河、その季節の変化を全身で感じながら、パワフルに森を駆け抜ける愛知県発の本格的な距離トレイルランニングレース。コースは茶臼山を起点に九百名のランナーがゴールの湯谷温泉大駐車場に、六十三kmに挑戦する。



この大会のエイドステーションの一つとして風光明媚な四谷の千枚田「ふれあい広場」が選ばれ、しじやおにぎり(ミネアサヒ)を八百人分の支度をする事になった。エイドステーションが「ふれあい広場」であることから行政区の四谷区長に協力要請があったものの四谷地区だけでは捌ききれないことと、「ふれあい広場等」の維持管理

を義務付けられている保存会が母体となれば、力強い連谷お助け隊や棚田っ娘、公民館、連合区にも呼びかけ、連谷校区全体で大会を盛り上げる事が可能である。

大会当日に備え、事前に参加、協力者に集まっていたき準備に知恵を出し合い、よい雰囲気接待、応援に多くのご協力をお願いします。

## 横浜ゴム新入・幹部研修

四月三日(金)、恒例となった研修の受け入れを行う。

横浜ゴムと千枚田の繋がりは長く、生産性の低い棚田の百姓への支援として稲藁を高価格で購入、百姓は大変喜んでいいる。

同社は、生物多様性の取り組みとして生物モニタリング調査、ビオトープの設置、自然再生など、四谷の千枚田に大きく貢献して頂いている。また、保存会も植樹祭や記念式典などに参加させて頂いている。

研修当日は市長さんも激励に駆けつける予定で、多分、新城市に住み、税金を払って頂きたいと挨拶するではないかと思っている。

## 近況

棚田学会通信四十五号の表紙及び特集棚田の生きものが掲載された。

行 平成二十七年三月二十日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文責 小山舜二